

技能賞

西村 眞一君

国内外における左官技術者の
育成教育への貢献

西村眞一君は、45年左官業に従事し、平成18年から、同君の現場での経験と左官に関する裏付けのある知見をもとに、ものづくり大学建設学科の非常勤講師を務めている。大学では、1年時の「左官・タイル基礎実習」で、湿式仕上げの基本の「ぬる」ことの理念をセメントモルタル塗りを主とした鏝塗り作業を通して伝え、下地と仕上げの関係や材料や工法、品質管理、施工管理の手法を学ばせている。3年時の「仕上技能工芸および実習Ⅰ（左官構工法実習）」では、木造のラス系の下地と仕上げとの関係、下地の施工性と仕上げ工事の関係などについて実習させている。他にも、伝統的な土壁工法や漆喰の施工方法についても実技を通して学ばせている。このように、同君は非常勤講師団の中心として、目的にあった実習授業のシステムを構築し、大学教育において技能を伝承している。

また同君は、ミャンマー国で「日本式」の左官技能育成に努めている。この事業はJICAの「ミャンマー国建築技能設立運営及び技能認証制度の普及・実習事業」の内、日本の左官工法を持続可能にする人材育成とプログラムの構築に関するものである。同君は1ヶ月間同国に滞在し、前例のない同国での座学・実習・卒業試験等のプログラムを構築した。さらに、日本式の効率が良く品質が高い左官工法の同国への普及に取り組み、日本で汎用的な繊維ネット伏せ込み工法を実習授業に採用した。その際必要な日本の道具を、同国内の鍛冶屋に作製委託し、中首鏝、四半鏝の製造を始めている。今後日本の鏝が同国から他国に広まることで、日本の左官工法が大きく展開していくと期待される。

以上のように、国内外での左官技術者の育成教育へ技能面から大いに貢献している。

よってここに、日本建築仕上学会学会賞の技能賞を贈るものである。